

シューベルトの「魔王」

クラシックギター編曲を終えて。

演奏のアドバイスと制作秘話。

シューベルトの「魔王」制作秘話と演奏指導。

シューベルトの歌曲「魔王」をクラシックギターに編曲し、
Youtubeに[演奏動画](#)を投稿した火頭と申します。

本書では本作の演奏上の課題や動画制作にまつわるお話などを記します。

少しでも多くの人に自身の作品を知って頂けるよう願います。

まずこの「魔王」という曲についてですが、[Wikipediaの情報](#)を抜粋しました。

「魔王」は、シューベルトが1815年頃に作曲したリート（歌曲）。

ゲーテの同名の詩に、少年期の作者が触発され、短時間のうちに歌曲と伴奏を完成させた傑作。
ドイッチュ番号は328となっている。作品番号は1が与えられているが、これはシューベルトの作品のうち、
最初に出版されたもの、を意味するに過ぎず、
シューベルトはこの作品以前にすでに多くの歌曲やピアノ曲を完成させている。

<曲想など>

Schnell（速く）

ト短調。変形したロンド形式。4分の4拍子。（ただし火頭の編曲は8分の1 2拍子）
序奏は右手「G」音のオクターブ奏法で、嵐の中の馬の疾走、
更に左手の音階音型でしのびよる不気味さを演出している。

単独の歌手で、

狡猾な魔王が言い寄る場面、家路に急ぐ父親、恐れおののく息子の3役を演じ分ける必要がある。
意表をついた転調とたくまざる（伴奏音型の）単純さを旨とする作者の作曲技術が
これほど効果的に発揮された例はない。

魔王の声の部分は最初平行調変口長調、2度目はハ長調、
3度目はハ短調のナポリ調（ナポリの六度の和音調）である変ニ長調で歌われ、
徐々に調が上昇させることで、緊張感を高めていく。

また、子供の声の部分で、ピアノと歌声部が短二度で接触するところなどきわめて斬新であり、
シューベルトがコンヴィクトでこれを試演したとき、周りの者は（老教師ルージチェカを除いて）誰も理解しなかった。

終結部にいたってAs音が急に登場する（ナポリの六度）。
一瞬の隙をついて主和音で終わる。詩の中で突如息子の死を宣告しているのと緊密に符合させている。
この終結部はレチタティーヴォ風の処理がなされており、極めて印象的である。

<記事の一部を加筆/削除しました@火頭>

筆者がこの曲に初めて接したのは、中学校の音楽の時間でした、授業の中で「クラシック音楽鑑賞の時間」というものがあったのですが、様々なクラシックの名曲を聴いた中でも、この曲だけは抜群に印象に残っていました（他には「モルダウ」くらいしか覚えていませんし）

その時に聴いたバージョンは、日本語の訳詞で歌われていて「おとーさん！ おとーさん！！」というあまりにストレートな詞が、微妙な年齢の少年少女が集う教室を、居心地の悪い空気へと変えたのを覚えています。

その後、17歳くらいから私はクラシック音楽にハマるようになります。当時、エレキギターの速弾きが好きで「速さ・凄さ」を追い求める内に、好きなジャンルが、ハードロック→ネオクラシカル→クラシックと、見事、三段式に変化していったのです。

あるとき、ネットでヴァイオリンの超絶技巧モノを調べている時に、ヴァイオリン版「魔王」を発見します。

この編曲は、[エルンスト](#)というロマン派のヴァイオリニストが手がけたもので、とてもカッコ良い編曲です。

更に[ギドン・クレーメル](#)という私の尊敬する演奏家がこの曲を取り上げたということもありなんとかこの曲をギターで弾けないかなあ と試行錯誤したのを覚えています。

ところが、エレキギターは基本的には伴奏かメロディのどちらかを担当する楽器です、伴奏しながらメロディを弾く、というのは苦手なんですね、軟弱な少年だった著者は、じゃあ「魔王」無理じゃん、と早々に諦めましたが、この事がキッカケで、後の私のメイン楽器となるクラシックギターの存在を知るのですね、「魔王断念」のホロ苦い経験が、私をクラシックギターへ転向させた一因であると感じています。

それからずいぶんと時は経ちました。

結局私は、目立った功績もない普通のクラシックギタリストに落ち着いていたのですが、ある時、自身のブログで[山下和仁氏](#)の「[展覧会の絵](#)」にチャレンジするという企画を行うことにしました。

この山下和仁氏は日本が世界に誇るギタリストで、10代当時から演奏テクニックでは世界一とされている方です。

その山下氏が17歳の時に公開した「展覧会の絵」は今でこそ、
Youtubeで世界の演奏家達に取り上げているのですが（それでも2、3人ですけど）
楽譜が公開されてからも、20年間本人以外の誰も弾くことの出来ない超難曲として半ば伝説化
していました。

（「絵」にチャレンジしたYoutubeの若手達も世界中から賛辞の声を受けています）

で、その難曲に私もチャレンジしてみようと思いついたわけです、
まあ全楽章弾くつもりはなく、部分的に弾き、録音をネットで公開することで、
他に挑戦者がでてくれば面白いと考えたわけです。

チャレンジの結論としては、演奏者それぞれの技術レベルに合わせた楽譜のカスタマイズにより
「なんとかできんこともない」という感じに落ち着きました。
そのあたりのお話は、[著者ブログ](#)のエントリーを見て頂ければと思います。

前置きが長くなりましたが、この「展覧会の絵」チャレンジを経て、
今までの自分にはなかった技術が身につき、その技術をもってすれば、
もっとクラシックギターのレパートリーを拡大できるのではないかと考えたわけです。
↑発想が少年山下和仁氏そのもの、著者はアラサーですが．．．

早い話が、好きな曲をギターで弾きたい、これだけです。
ヴァイオリン編「魔王」に恋焦がれて十数年、ようやくそのクラシックギター版を発表することが出来、
その制作の軌跡と、演奏上の注意点などをここに記そうと考えたわけです。
(販売促進を狙っているわけではないんよ．．．ゲフゲフ)

さて、一応楽譜を頭から追って行く形で解説をして行きたいと思います。

まず何と言っても、「魔王」といえばコレ！という冒頭部の伴奏、
3連符で奏でられる「G」の音と低音の忍び寄る怖い音型。

Presto

Guitar

「ここをどう弾くか」を考える所から「魔王」のアレンジは始まりました。

クラシックギターでは2つのライン（＝フレーズ/メロディ）を奏でる事は多々あるのですが、
こういう音の数が1対1の関係になっているものはあまりありません。

どうしてもそれをするなら、低音を親指一本で担当するか、今回私が選んだようにスラーで対応することになります。「魔王」はある程度速いテンポで弾くことを考えていましたから、親指一本で対応しようとする、速度的に限界があります。冒頭から肉体的限界を試すような危険な橋を渡りたくありません。

↓こうすると速度の限界がある。

Guitar

ちなみに山下和仁氏が似た局面を、爆速で弾くために編み出したのが、こういう奏法。

山下和仁編
「展覧会の絵」より「こびと」
エンディング

Guitar

な、なるほどよお〜。

低音を親指&人差し指、そして高音を中指&薬指で担当すれば50:50、こりゃアッパレ！
 . . . ってこれ、めちゃくちゃ難しいんです、未だにこのテクニックは山下氏以外はまともに弾けません。

しかも今回は「魔王」の顔とも呼べる伴奏型、曲中何度も使うわけですから限界ギリギリの奏法は嫌です。

大体この奏法で3連符を弾くのは無理ではないかと、それで結局スラーでの対応に落ち着いたわけですね。

冒頭からこれじゃ先が思いやられますね。

ま、今回採用したスラーもクラシックギターではあまり見ない形です、
 ライン1は実音で弾き続け、ライン2は1と同じタイミングでスラーで発音する、
 これがこの部分のキモです、なんかこの奏法は頭がこんがらがりますよ、見た目以上に大変です。

次に行きましょう、次は和音連打です。



これもクラシックギターでは難しいテクニックです。

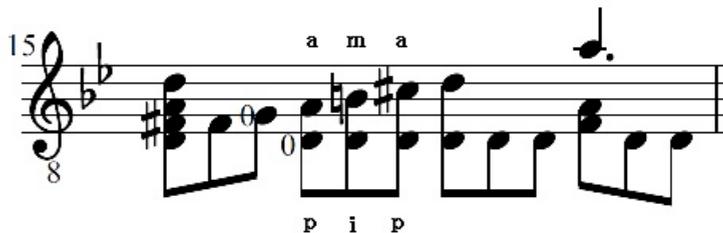
こういう連打に、ある程度の速度が乗ると右手が跳ねだすんですね。

右手がポンポンと跳ね出すと制御が効かずにミスタッチを引き起こします。

出来るだけ、弦を引っ搔くような動きではなく、弦を握り込むような動きをしましょう。

私の演奏動画を見ても、かなり跳ね気味で制御が苦しそうなのがわかります。

次、この部分、これ低音を「p i」で弾く山下テクニック。こんなにちょこっとだけの使用でも、



難しい。

この編曲では、運指上の困難を避けるため、
 同じ音型でも1回目と2回目で違う運指を使ったり、開放弦を交えたりしています。
 この開放弦マジックがないと、この編曲は完成しませんでした。

また、この編曲にはかなりのストレッチが飛び出す瞬間があります、
 もし挑戦される場合は無理をしないようにしてください。
 私も練習している時、自分で自分が憎くなりました。

次、ハーモニクスの部分。



ところで、「魔王」には3人の登場人物（ナレーターも含めると4人ですね）がいることは前述の通りですが、

ここで初めてキャラクターとしての魔王が登場します、

実は魔王のセクションはどれも甘美なメロディがつけられていて、あまり不気味な感じはしません 笑

さてここはメロディをハーモニクスで、アルペジオの伴奏を実音で弾きます。

この手法自体はそれほど珍しくはありませんね。

私は爪がかなり長いタイプの奏者で、

指板上のハーモニクスはコツコツと爪が指板に当たり、ミスを起こしやすく苦手です。

特に4弦のハーモニクスは音が出しにくく、苦勞させられました。

こういう明らかに難しいセクションは、ぐっとテンポを落として、ゆったりと聴かせるのも手だと思います。

「難しいからテンポ落としてるな」とバレるのはよくありませんけどね 笑

とにかくセーハが多く、練習するのが大変なセクションでした。

その後、次の魔王登場のシーン、ここも難所ですが楽しいです。
流れるようなメロディの下で、アルペジオ風の伴奏が上下します。



原曲を聴いてみてもこのアルペジオは華麗なものではなく、
なんとなく「うねうね」「ドロドロ」とした重い雰囲気があります。
実はこの表記は楽譜的にあまりよくありません、っていうか不合格です。
メロディと伴奏は上としたとで分けて書くべきですからね。
ギターではたまに今回のように声部を混ぜて書かれたりしますが、対位的には不親切そのもの
です。
まあ全てキチンと書くのは大変だったり（！？）、逆に譜面がゴチャゴチャしてしまう可能性が
ありますので、
最終的には自己判断です。

次、人差し指一本のコードトレモロです。

Tremolo Strum with index finger



アレンジ当初は、今こそが山下ポイントだ！！と息巻いて、氏が「キエフの大門」でみせた指の腹を使ったトレモロを使う予定でした。実際に試してみても中々良かったのですが、どうしても十分な音量が出ず、更にセクションの後に控える、激しい場面との切り替えが難しく、断念しました。

奏者の判断で「指の腹トレモロ」に替えて頂いても結構ですし、ラスゲアードでもっと良い雰囲気が出せればそれも良いかと思えます。人差し指一本トレモロですが、私の場合、指の外側（利き手が右手の場合親指側ですね）を使い、ブルブルブルと上下にかき鳴らします。

この弾き方はスピードが出ますが、あまり重量感が出ず、軽いパラパラとした音になりがちです。
。右手をサウンドホール上などにし、ふくよかな、包み込むような音が出るような工夫が必要です。
。

ラストまで、盛り上がる所だけあって難しいです。

伴奏型とメロディとの兼ね合いが非常に難しくなっています、

ここも運良く(?)開放弦ポイントの助けにより困難を克服することができました。



とはいえ、ストレッチ+厳しい運指とが相まって、曲の難易度をグッと上げてしまいました。



この部分は「E」の音を除外すると楽になります、どうしても出来ない場合はオシアでどうぞ。

以上、「魔王」の演奏上の注意でした。次は録音・録画、使用したソフトなど制作の裏話に触れます。

魔王の楽譜ご購入は[こちら](#)から

今回使用した機材をご紹介します。

<録画>

所有の 안드로이드 ケータイ「**Galaxy S-II**」基本アプリのカメラ機能で撮りました。
このケータイ、設定で解像度を選べるのがありがたい、
以前所有していたi-phoneでは画質設定が出来なかった気がします。

今回はもう少し画質が高くても良かったかと反省しております。
しかし、一人でカメラのセッティングをするのは大変です、
ちょうど良い角度を見つけるため、撮ってはバミリ撮ってはバミリを繰り返します。
それでもいざ撮れば左手があまり映っていないという仕打ち、もう疲れました。

<録音>

BOSSのMTR BR-600

昔友人とバンドを組んだ時に購入した一品、現在所有している唯一の録音用機材。
内蔵されているマイクを使っていますので、音質はイマイチです、まともなマイクを買うお金が
欲しいです。
今回「魔王」を録音し終わった時に、ふとMTRを見ると謎のプリセットがオンになっており、
「ひいっ！！？」となりました。

調べた結果、ボーカル用のコンプレッサーをかけ録りしていたという．．．音質に悪い影響を与
えてくれました。
まあディレイとかじゃなくてヨカッタ、え？ちゃんとモニターしろって？

<音源編集>

Audacity (オーダシティ)

録音はいつもAudacity、インターフェースのシンプルさと、動作の軽さが気に入っています。MTR内蔵マイクからOUTした音をダイレクトでPCに繋ぎ、オーダシティで録音ボタンを押すと録音が可能。

まともなオーディオインターフェースを買うお金が欲しいです。

録音が終わってから、良いテイクの前後の無駄な部分を切り捨てます。

このソフトでもリバーブやEQをかけることができますが、

細かい設定がしにくい（オートメーションも不可）なので

私は録音が終われば、WAVで書き出し、ミキシングは次のソフトに渡します。

Reaper

少し前に無料版のお試し版(?)を落としておいたので、ミキシングに使ってみました。

VSTを読み込めるので、事前にリバーブやEQなど色々と落としておきました。

EQで低音や高音のバランスを整えたり、曲で何度も弾く音を少しだけ抑えたりします。

リバーブはつけかけ過ぎてしまうので、抑え気味にしましょう

(ミキシングは一日に詰めてやらない方がいいです、耳がマヒしますので)。

まあこういう作業する時に、最初っからコンプが掛かっている音にエフェクトかけるのが嫌なんですよ、

全くおバカなレコーディングしちゃったぜ。

今回はクラシック音楽ですからあまり派手にエフェクトをかけません、

演奏で音量、低音・高音のバランスをとっているわけですから。

ただ動画を投稿するという主旨があるため、動画の基本音量が小さすぎることは避けた方がいいです、

今回は少し小さかったと反省。(理由は後述)

クラシックの人でもコンプ、リミッター、マキシマイザーなど、知っておくと動画投稿には有利です。

Reaperの使い勝手はまあまあ良かったです、無料版としては最高レベル。

書き出しの音質を選べるので、無駄に高音質で吐き出してみたのですが、... 次の項へ。

<動画編集>

Windows Movie Maker

昔からお世話になっているソフトですが、使う理由はPCに標準装備されているということだけです。

できればフリーでもいいから違うのを使った方がいいです。

ともあれ、このソフトにケータイで撮った動画

（形式は自動でMP4になっていたので変換なしで読み込めました）を読み込み。

前後の無駄を削除します。

そして肝心の音源を読み込むのですが、．．．なぜか高音質の音源は読み込んでくれませんでした。

結局Reaperの書き出し設定をCD音質レベルにするとすんなりと読み込めました。

これは悲しかった、投稿者としては動画の内容に関わらず、

懐の大きいソフトを選びたくなるってもんです、形式やサイズの制限が多いソフトはNO!!

編集自体は、薄暗い部屋で撮っていたので多少画面を明るくしただけです。

当然、動画と音源の音が混在していますので、動画の音をミュートにし、動画と音源の位置を合わせます。

実は今回ムービーメーカーを起動させると、以前私が使っていたバージョンからアップデートされていて、使い方が色々と変わっていたのです。今回の作業では、動画側の音をミュートにすることは前述の通りですが、新しいバージョンには何故か「動画と音声の音量バランス」というコントロールがあります（全部で、動画の音量コントロール、音源の音量コントロール、さらに両方の音量バランスのコントロールの計3つ）。

この3つめのコントロールは動画投稿が済んでから気づきました。

動画と音源のボリュームを調節してるんだから、3つめのはいらんんじゃないんですかー！！

というわけで最適音量での投稿が出来なかったわけです．．．ショック。

その後書き出し作業ですが、結構クオリティが選べるようです。

試しにハイクオリティで書き出したのですが、すごいサイズ数になりました（976MB）。

このサイズの動画はYoutubeに投稿しました、つべは懐の大きいですね。

ニコニコ動画にも投稿したのですが、こちらはサイズ上限が100MB。

かなりクオリティを落とし、たしかケータイ視聴に最適なレベルで書き出しました。

以上、制作・編集にまつわるお話でした。

「火頭工房」について

火頭工房について

「火頭工房」は、ギタリスト「火頭」による音楽プロジェクトです。
ロックバンドとして、アルバムや楽曲毎に参加メンバーを選ぶ、プロジェクトベースの活動を考
えている他、
自身の作品やアレンジを電子書籍として販売しています。

ウェブを駆使した新しい音楽の表現方法を考えています。

E-mail : hiatamaworkshop@gmail.com

ブログ : <http://hiatama.blog.fc2.com/>

ツイッター : [hiatama84](#)

ニコニコ動画コミュニティ : [co1124360](#)

今回編曲した「魔王」は[こちら](#)からご購入いただけます。